

視聴覚教育

NO. 371

発行日

23. 3. 18

発行

岡崎市AVL

編集

現職研修委員会

学習情報部

この一年の歩み

学習情報指導員 島田繁直

学習情報部では今年度、「活用元年」として普通教室に整備されたICT機器の活用を促進してきた。大型デジタルテレビは、鮮明に静止画や動画を後ろの席の子にまで提示することができる。分かりやすい資料の提示により、子供たちが意欲的に学習に取り組む姿が見られるようになってきた。

日常的な活用が進む中、11月に葵中学校で「教育ICT活用実践研究東海・北陸ブロック発表会」が文部科学省と共催で開催された。全学年全学級の授業公開に、市内外から660名もの参加者があった。また、ICTの教育活用推進部会にも多くの参加者を得、岡崎市のICTの日常的な活用を参観してもらうことができた。



今年度の環境面での整備として、財政状況が厳しい中、8校のパソコン室パソコンの更新、5校の校内LANパソコンの更新、全小中学校

視聴覚用語
『クラウドコンピューティング』
特にインターネットをベースとしたコンピュータの利用形態。ユーザーはコンピュータ処理をインターネット経由で、サービスとして利用する。利用者が用意すべきものは最低限の接続環境のみである。

の教育ネットワーク用パソコンとプリンタの更新、中学校進路指導用パソコンの更新、17校の校内LAN敷設などが整備された。

機器の整備とともに、高品質なコンテンツ制作も求められている。そういった意味で、全国自作視聴覚教材コンクールにおいて、2作品の文部科学大臣賞の受賞を含め、4作品が入賞した。愛知県自作視聴覚教材コンクールでも、最優秀賞の受賞をはじめ、多くの作品が入賞したことは意義の大きいことである。また、子供たちも全国規模のコンクールで入賞している。KWN（キッド・ウィットネス・ニュース）コンテンツ、全国子ども科学映像祭、キューブ活用コンテストなどで子供たちが制作した作品が入賞を果たした。視聴覚ライブラリー主催の「子どもビデオ教室」や各学校でのICTを活用した授業が、子供たちの映像制作活動を進める力となっている。

こうした状況に合わせ、情報教育推進委員会が、市全体のマルチメディア開発事業を推進した。ネットワークで利用可能な資料の収集・開発、情報モラル教育実践授業の実施、教員研修等を企画・運営してきた。

今年度もこのように多方面で素晴らしい成果を残すことができた。

|| 視聴覚教育あれこれ ||
平成22年度（第55回）

愛知県自作視聴覚教材コンクール結果発表

【生涯学習部門・ビデオ教材部門】

・優秀賞

「10年ぶりの火渡り神事」

中村 銈次

・佳作

「世界文化遺産 姫路城」

矢野 正義

【学校教育部門・ビデオ教材部門】

・優秀賞

「法性寺ねぎを守る」 自作教材制作委員会A班

「名水の里とつかわ」 人と自然がともに生きる」 自作教材制作委員会D班

・優良賞

「大門のしめ縄」 地域の伝統を守り、受けつぐ人々」 自作教材制作委員会B班

「輝け命！」 チームメツセンジャーの挑戦」 自作教材制作委員会C班

・佳作

「鳴りひびけ！岩津天神太鼓」

岩津小学校 岡本 昌也

「三浦園芸のひみつ」

豊富小学校 園原 誠

【学校教育・コンピュータソフトウェア部門】

・最優秀賞（教育長賞）

「電気の性質を調べよう！」 電気自動車につながる基礎知識」 自作教材制作委員会G班

・優秀賞

「徳川家康と三河武士」

自作教材制作委員会F班

・優良賞

「岡崎の野鳥動画集」 奥殿小学校 橋本 直司

実践報告Ⅱ

「自分の考えた方法を説明するために」

竜谷小学校 林 俊樹

算数科の学習で、多様な解法がある課題では、児童たち各々が考えた方法を説明すると、それが聞く側にうまく伝わらない場合がある。また、分かりやすく伝えようとノートやワークシートに記述したことを黒板にかけて説明しようとするとかかなりの時間がかかってしまう。このような場面では、教室に設置されている教材提示装置とデジタルテレビの活用は、大変有効である。

6年生の算数科「場合の数」の発展課題に取り組んだ時に、多様な考え方を発表する場面を設けた。考え方の発表では、表や図（樹形図）などを活用したものがた

くさんあったので、教材提示装置を使ってノートやワークシートを映し出せるようにした。するとどの児童も、自分の考えた図や表を映し出し、それを指し示しながら分かりやすく説明することができた。聞く側も、「よく分かる」と一人一人の考え方が理解できたことに満足そうであった。

このような発表の仕方は、発表者の表現力の育成だけでなく、聞く側の児童たちの学習の深まりにも効果的であると改めて感じた。



Ⅱレッツ・トライⅡ

数学の授業に「ますなび Do Plus!」を活用

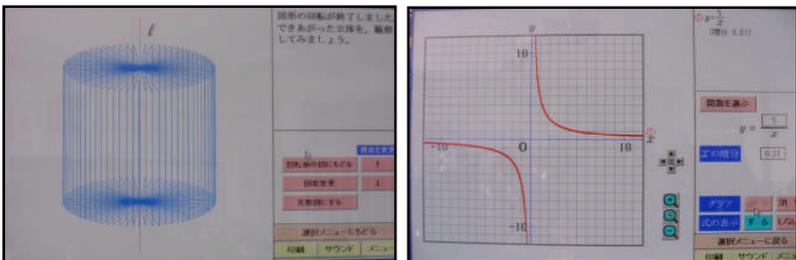
中学校の数学の授業において、コンピュータを活用することで、生徒に分かりやすく資料提示ができる。啓林館の「ますなび Do Plus!」が操作しやすく便利である。

例えば、「比例と反比例」の単元では、グラフをこのソフトでかくことができる。特徴として比例定数や x の増分を自由に設定でき、座標を0.01ごとに細かくとることが可能である。これにより生徒は、点の集まりが直線や曲線のグラフになることを視覚的に知ることができる。

また、「空間図形」の単元では、回転体の立体図をかくことができる。長方形や直角三角形以外にも、生徒の意欲を引き出させるような図もある。答え合わせをするときには、画面に注目する生徒がおもわず歓声をあげるほどである。

パソコンで手軽にグラフや立体図をシミュレーションでき、理解の定着につながる。一度試してみてもどうであろうか。

（城北中学校 学習情報主任 鋤柄 光治）



ライブラリーだより

●2010年度KWN日本コンテスト

KWN（キッド・ウィットネス・ニュース）は、パナソニック財団が子供たちを対象とした教育支援プログラムで、ビデオ制作活動を通じて、創造性やコミュニケーション能力を高め、チームワークを養うことを目的としているコンテストである。

【脚本賞】

「戦争をなくすための、ある方法。」

～We can do anything!～

井田小学校

●第13回キューブ活用コンテスト

キューブ活用コンテストは、スズキ教育ソフトがキューブシリーズなどを使ったパンフレットやスライド作品を対象に行っているコンテストである。

【準グランプリ】

「思い出のアルバム 二十歳の自分へメッセージ」

生平小学校 5年生

【優秀メディア賞】

「はじめての作詞・作曲」

竜美丘小学校 6年2組

【編集後記】今年度も、岡崎の視聴覚教育の取り組みについてお伝えすることができました。多くの実践例や情報をお寄せいただき、ありがとうございます。大型ディスプレイなどの教室に整備された機器を活用した実践が多かったことが印象に残りました。来年度も一層の充実を図っていきます。